

古典学習における教材反応と鑑賞の深化・拡充

——中学校における「万葉集」の場合——

その一 一読後の教材反応を中心として

阿部 真人

一、はじめに

万葉集の学習指導の研究を、次の三段階に分けて計画している。

(1) 一読後の教材反応について

生徒の関心の集まる歌・関心の集まらない歌を調べ、その理由を知る。

(2) 指導の実際

一読後の教材反応にもとずき、効果的な指導法を探求する。学習の到達点をあきらかにし、指導の限界と可能性をみきわめる。

(3) 発展学習について

教室の授業以外における、生徒の意欲と個性に応じた自主的鑑賞の方法を研究する。

発表のほうも以上の三つに焦点をしばらくしたいと思います。本稿は、その中の「(1)一読後の教材反応について」をテーマにしたものである。

二、研究の方法

(1) 対象の生徒 広島大学教育学部付属東雲中学三年生八十七名

(男子四十一名、女子四十六名)。

(2) 調査の時期 昭和四十二年十月

(3) 教材の選定 現行の教科書十一種のうち、二種以上の教科書が採択しているもの二十一首に、三首をつけ加えた。(つけ加えた歌は、あとに記載した⑥・⑩・⑫の歌である。)

選んだ歌二十四首は、次のような形でプリントをし、それに語句の注釈、作者の説明などを付した。

①わたつみの豊旗雲に入り日さし今夜の月夜まさやかにこそ

天智天皇

②熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今はこぎ出でな

額田王

③春過ぎて夏来たるらし白たへの衣ほしたり天の香具山

持統天皇

④石ばしる垂水の上のさわらびのもえいづる春になりにけるかも

志貴皇子

⑨ 東の野にかぎろひの立つ見えてかへりみすれば月傾ぶきぬ
柿本人麻呂

⑩ あまざかるひなの長路ゆ恋ひくれば明石の門より大和鳥見ゆ
柿本人麻呂

⑪ 淡海の海夕波ちどり汝が鳴けば心もしのいにしへ思ほゆ
柿本人麻呂

⑫ あしひきの山川の瀬のなるなべに弓月が岳に雲立ち渡る
柿本人麻呂

⑬ 桜田へたつ鳴き渡る年魚市濁潮干にけらしつ鳴き渡る
高市 黒人

⑭ 田子の浦ゆうち出でて見れば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける
山部 赤人

⑮ わかの浦に潮満ちくれば瀧をなみ葦辺をさしてたづ鳴き渡る
山部 赤人

⑯ 吉野の象山の際の木末にはこだもさわく鳥の声かも
山部 赤人

⑰ ぬばたまの夜のふけゆけば久木生ふる清き川原にちどりしば
山部 赤人

⑱ 憶良らは今はまからむ子泣くらむそれその母も我を待つらむぞ
山上 憶良

⑲ うり食めば 子ども思ほゆ くり食めば ましてしのばゆ
づくより 来たりしものぞ まなかひに もとなかかりて 安

眠し寝さぬ

⑳ 銀も金も玉も何せむにまされる宝子にしかめやも
山上 憶良

⑳ 世の中を憂しとやさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらね
山上 憶良

㉑ 人もなきむなしき家はくさまくら旅にまさりて苦しかりけり
大伴 旅人

㉒ あをによし奈良の都は咲く花のにはふがごとく今盛りなり
小野 老

㉓ 春の野にかすみたなびきうら悲しこの夕かげにうぐひす鳴くも
大伴 家持

㉔ わが宿のいささ群竹吹く風の音のかそけきこの夕かも
大伴 家持

㉕ うらうらに照れる春日にひばり上がり心悲しもひとり思へば
大伴 家持

㉖ 信濃路は今の聖道刈りばねに足踏ましなむくつはけわが夫
東 歌

㉗ 父母が頭かきなで幸くあれて言ひし言葉せ忘れかねつる
防人の歌

(4) 調査の概要

プリントに載せた二十四首の歌について、一読後、ただちに次の要領で調査を試みた。

〔調査一〕今までに知っている歌について答えてください。

歌の 番号	既知の もの印	何によって知 っているか。	例 ○小学校の国語の教科書。 ○中学校の社会の時間。 ○中学一年の時に読んだ「○ ○」という本。
----------	------------	------------------	--

1

略	24	23……2

〔調査二〕それぞれの歌について、次の記号を書いて下さい。

- ひじょうに好きな(よいと思う)歌
- △ 少しは好きな(よいと思う)歌
- × 好きになれない(よいと思えない)歌

略	24	23……2	1	歌の番号	記号

〔調査三〕好きな(よいと思う)順に十首選んでください。

△ 同順位があってもよろしい。▽

略	10	9……2	1	順位	歌の番号	好きな(よいと思う)点

〔調査四〕好きになれない(よいと思えない)順に三首選んでください。

△ 同順位があってもよろしい。▽

略	3	2	1	順位	歌の番号	好きな(よいと思えない)点

これらの調査にもとづいて、一読後において生徒が積極的姿勢を示す歌、消極的姿勢を示す歌の二つに分けて検討を進めた。

三、調査結果とその考察

(1) 生徒が積極的姿勢を示す歌はどれか、また、どんな点に親しみを感じているかを考えてみたい。

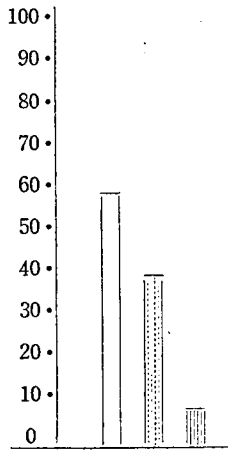
〔調査三〕において、生徒がそれぞれ選んだ一位の歌を十点、二位の歌を九点、……十位の歌を一点として全生徒のものを集計すると、次のようになる。

順位	歌の番号	総点	順位	歌の番号	総点	順位
17	⑬	264	9	⑬	368	1
18	⑮	236	10	⑰	366	2
19	①	220	11	⑩	341	3
20	⑦	213	12	⑱	302	4
21	⑤	212	13	⑭	289	5
22	⑳	203	14	④	286	6
23	㉑	161	15	③	270	7
23	㉒	153	16	㉑	265	8

歌の番号	総点
⑭	131
⑫	111
⑥	102
⑬	96
⑧	90
⑪	65
②	54
⑨	54

次に上位の歌五首について、生徒が親しみを感じている点を、それぞれ具体的に見ていきたい。なお、各歌のあとに記した棒グラフは、「調査二」の結果によるものである。縦軸は人数(%)を示し、――はひじょうに好きだ(ひじょうによい)としたもの、――は、少しは好きだ(少しはよい)としたもの、――は、好きになれない(よいと思えない)としたものをあらわす。

⑭ あをによし奈良の都は咲く花のにはふがごとく今盛りなり

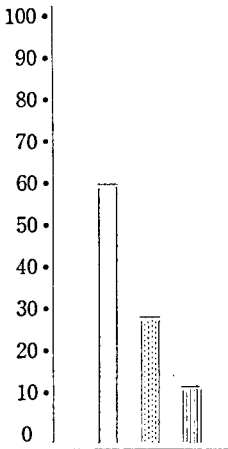


- 好きな(よいと思う)点を、生徒は次のように述べている。
- ・奈良の都が盛んだったようすが目に浮かぶ。
 - ・奈良の都の美しさがよくでている。
 - ・明るく、はなやかな感じ。
 - ・優雅な、のんびりとした感じ。
 - ・あふれるばかりの情緒がなんととも言えない。

・「にほふがごとく」に情感がこもっている。
 ・口調がよい。
 だいたいにおいて的を射た鑑賞と思えるが、その要因として、次の生徒の感想に注目したい。

・社会科の時間に何度か聞いていたので、すぐ親しめる。
 ・よく知っているので、読みやすく、イメージもすぐ浮かぶ。
 つまり、小学校と中学校のそれぞれの社会科の時間に、ほとんどの生徒はすでにこの歌に親しんでいるのである。家庭の会話や書物においても触れる機会があった者もあると思われる。したがって、ひじょうにスムーズに生徒の心の中にはいついていついていっている。単にイメージとしてだけでなく、快い調子として、作者の感動が伝えられているように思う。

⑯ 世の中を憂しとやさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば



- 世の不条理に抵抗できないつらさがよくあらわれている。
- ・作者や当時の庶民の心がわかるような気がする。
 - 生徒たちはこのように述べているが、具体的に
 - ・「苦しいなあ、どうにかならないものかなあ。」という作者の

ためいきがもれてくるようだ。

・あきらめに似た気持ちがかがえる。

・「鳥でないのなら、なんとかこの世を生きていかなければなら
ないのだなあ。」という嘆きとも決意ともつかぬ作者の気持ち
がかがえる。

というふうには、その受け取り方はさまざまなのである。さらに

・多くの現在の心境にびったり。

・鳥になって飛んでいきたい——。苦しい時、人間なら一度は考
えること、私にもその経験があり、ひきつけられる。

といった種類の表現をしている者が、この歌をベスト十の中に選ん
だ者の二十五パーセントにおよんでいる。受験期をひかえた生徒た
ちの気持ち、この歌に対する共感度を増しているのではなからう
か。また、

・社会のつめたさを感じる。

・作者の世間に対する批判がよく出ている。

・今の世の中をあらわしていると思う。

という指摘からは、生徒たちの現実批判の姿勢をうかがうことがで
きた。

いづれにしても、

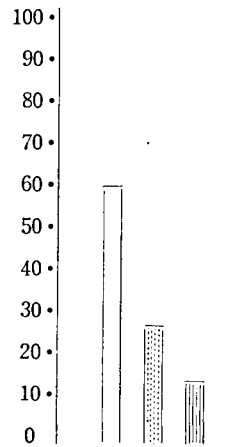
・意味がよくわかる。

・作者の率直な気持ちが出ているから好きだ。

という感想から想像できるように、この歌は、ごく自然に生徒たち
の心の中にとけこんでいき、かなりの共感度をもって迎えられてい
るように思う。

⑩ 田子の浦ゆうち出でて見れば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りけ

る



・小学校の時習った中で、一番印象に残っている。

・前から知っていたせい、情景がはっきりと目に浮かぶ。調子
も好きだ。

というように、生徒たちの七十パーセントが、すでにこの歌を知っ
ていたとしている。なじみにくい古語のみられる歌であるが、それ
をのりこえてイメージが描きやすかったのは、すでに知っていたと
いうことが最大の要因と思われる。そしてまた、富士山の雄姿が、
直接経験や、絵画・写真などの間接経験によって、比較的親しみやす
いものになっていたであろうことも見のがせないところであろう。

生徒たちのこの歌についての印象は、次のようである。

・美しい。さわやかな気分になる。

・雄大な感じ。

・富士山の雪の白さが印象的。

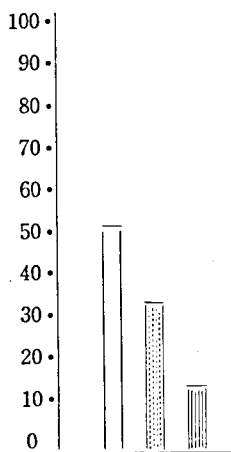
・調子がよい。

⑪ 人もなきむなしき家はくさまくら旅にまさりて苦しかりけり

・注がなくても意味がわかった。

・調子がよい。

・作者の素直な態度に好感が持た。



というように、歌意の平明さ、作者の率直さが好感をよんでいるよ
うである。

・妻をしのぶ気持ちがよく出ている。

・妻をなくした夫のさびしさ、悲しさ、空虚さを感じる。

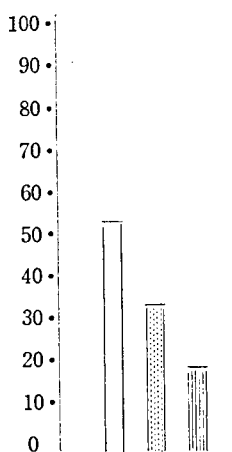
と、まずまず的確に作者の心情を理解している。そして、

・こういう気持ちがかかるような気がする。

・だれもない家に帰ったとき、これに似た空虚さを経験したこ
とがある。

と共感度もかなり高いようである。

⑭ 憶良らは今はまからむ子泣くらむそれぞれその母も我を待たらむぞ



中学校二年の社会科の時間に、ごく簡単に触れられた歌である
が、覚えていた者は約三分の一であった。生徒の反応としては、「口
調がよい。」と書いた者が、かなりあり、また、「作者の妻子を思
う気持ち」「あたたかい家庭愛」が率直に歌われていることに好感
を示している。なお、「今日でも見られる庶民的な感情」という生
徒のことばからもうかがえるように、こうした憶良の心情は、現代
の世相を反映しているとも言え、生徒たちにとって案外親しみやす
かったように思われる。

(2) 生徒が消極的姿勢を示す歌はどれか、また、どんな点に抵抗を
感じているかを考えてみたい。

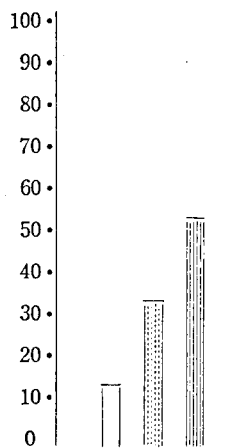
〔調査四〕において、前項と同じ要領で、一位を三点、二位を
二点、三位を一点として集計した結果は、次の通りである。

歌の番号	総点	順位	歌の番号	総点	順位	歌の番号	総点	順位
⑭	13	16	③	22	9	⑨	66	1
④	12	18	⑫	21	10	⑫	48	2
⑦	12	18	⑪	20	11	②	40	3
①	10	20	⑬	20	11	⑮	40	3
⑩	10	20	⑭	20	11	⑭	40	3
⑰	5	22	⑯	18	14	⑥	34	6
⑱	5	22	⑰	15	15	⑧	24	7
⑲	1	24	⑳	13	16	⑤	23	8

次に上位の歌五首について、生徒が親しみを感ずることができな

い点を、それぞれ具体的に見ていきたい。歌のあとに記した棒グラフは、前項の要領と同じである。

⑨ 桜田へたづ鳴き渡る年魚市潟潮干にけらしたづ鳴き渡る



好きになれない（よいと思えない）理由は、次の二つに大別される。

- ・一つは、歌意がつかめないことである。調査の結果によると、くぎれがつかめない。
- ・「年魚市潟」と「潮干にけらし」の間の助詞の省略に気がつかない。

・「桜田」と「年魚市潟」の位置関係がつかめない。などが、その主な原因とみられる。

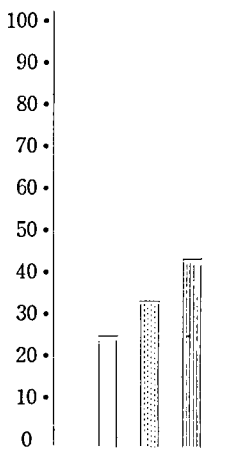
次は、

- ・作者が何に感動しているのかわからない。
 - ・その場の情景をよんだだけで、感動がない。
 - ・もりあがりを感じられない。
 - ・「たづ鳴き渡る」のくり返しがくどい感じである。
- という生徒の感想からうかがえるように、作者の感動した実感がわからないことである。そして、最後の「たづ鳴き渡る」のくり返し

がくどい感じだとした者が、この歌を好きになれない（よいと思えない）三首に選んだ人数の五十パーセントにおよんでいることから推察すると、「たづ鳴き渡る」のくり返しによって生じる動的な動きが把握できないことに、その原因があるように思われる。

また、時代をへだてた自然に対する生徒の認識の浅さというものも、この歌の鑑賞を困難にしている要素として考えられる。野生のつるが餌を求めて、群れをなして飛んでいく姿を実感としてつかむことは、意外に困難なようである。

⑩ み吉野の象山の際の木末にはここだもさわく鳥の声かも



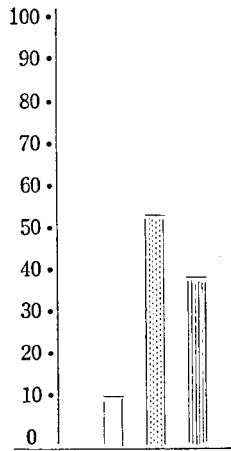
「情景がぱつと思ひ浮かばない。」と述べている生徒が多く、その原因としては、

- ・固有名詞や普通名詞がつづいて、こまごまとしている。
 - ・「際」「木末」「ここだも」「さわく」といった古語がびんときない。
- という点をあげている。
- それとともに、
- ・平凡である。
 - ・作者が何を言いたいのかわからない。

・ざわざわした感じで、おちつかない。

といった生徒の感想から考えると、自然に対する経験の狭さ、浅さが、この歌の鑑賞をいっそう困難にしているのではないかと思う。都会っ子のこのような傾向を補って、作者の新鮮な感動を伝える方法が当然問題になってくる。

② 熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今はこぎ出でな



・意味がとりにくく、また読みにくい。

・情景が浮かんでこない。

と述べており、でだしの「熟田津」の文字・音への抵抗、「船乗りせむ」「かなひぬ」「今はこぎ出でな」といった古語への抵抗、そういうものがこの歌を親しみにくいものにしていているようである。

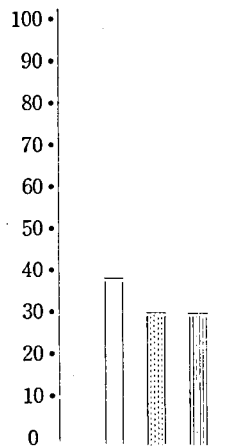
と同時に、

・事実を書いただけのようで感動がない。

といった意見を述べている者が多いのは、作者の感動を集約した「潮もかなひぬ」「今はこぎ出でな」ということばの高い格調が理解されていないからであろう。また、この歌が新羅征討への途上の歌であることを知っていた者は皆無であった。

⑤ うり食めば 子ども思はゆ くり食めば ましてしのばゆい

づくより 来たりしものぞ まなかひに もとなかかりて 安眠し寝さぬ



好きになれない（よいと思えない）理由としてあげられているものほとんどは、歌が長いということである。長いために、とっつきにくい、意味がとりにくい、まどろっこしい、というのである。しかし、この歌は、好きになれない（よいと思えない）とする者と、ひじょうに好きだ（ひじょうによい）とする者がほぼ同数であり、生徒による反応の差が著しい歌といえる。好きな（よいと思つ）理由としては、次の点があげられている。

・親の愛情がにじみでていようだ。

・最初の対句表現が、こどもへの思いをいっそうひきたたせる。

・調子がよい。

③ 信濃路は今の壑道刈りばねに足踏ましなむくつはけわが夫
この歌もグラフに示されているように、生徒による反応の差の著しい歌と言える。両者の受け取り方の違いを記すと次の通りである。

① 好きになれない（よいと思えない）とした生徒は、その理由として、次の点をあげている。

験からして理解しやすいものようである。ベスト十の中にはいつている歌を見ても、「⑦世の中を……」「⑧人もなき……」「④石ばしる……」「②春の野に……」など、みなさうである。そして、これらの歌に共通していることは、主観的なことばで、作者の気持ちや表面におし出されていることである。

・憂しとやさしと思へども

・旅にまさりて苦しかりけり

・もえいづる春になりけるかも

・うら悲し

などがそれであり、中には具象性に欠け、観念的色彩の強いものもあるが、この期の生徒たちにとっては、一読後においては、このほうが作者の感動がとらえやすく、親しみやすいものになっているように思われる。

次に、生徒が消極的姿勢を示した歌についてであるが、それらは歌意がつかみにくく、作者の感動の実感が理解しにくいもののようにある。歌意をつかむ上の抵抗になっているものとしては、語句の意味・助詞の省略・くぎれの理解に欠けることなどをあげることができる。また、長歌の長さによる抵抗ということも考えられたところである。

作者の感動の実感が理解できないことについては、作者の感動を集約した表現に対する理解度の浅さとともに、生徒の生活体験の豊かさ、貧しさが大きな要因となっていることは、前に、歌に即して具体的にみてきたところである。

とはいえ、この期の生徒たちにとっては、理解の困難な心情もあるようである。「②うらうらに……」の歌を例にとると、「春

ならうきするものが普通なのに、作者の心は悲しく沈んでいる。孤独な思いがよくあらわれている。」と作者の心情への理解を示し、さらに、「自分も、なんとなくこんな心境のときがある。」と作者の心情への共感をあらわす者がいる反面、「『うらうらに照れる春日にひばり上がり』と『心悲し』の結びつきがどうしてもわからない。」と訴える生徒も多い。

生活体験の差からくる違いであろうが、こうした作者の心情、感動をこの期の生徒にどこまで追体験させることができるかは、大きな課題である。

四、おわりに

以上、万葉集の歌二十四首について、一読後において生徒たちが示した関心の度合いをみてきた。また、それがどんな理由にもとづくものであるかについても検討を加えてきた。

万葉集の指導について考える時、限られた時間数において、どんな教材を取り上げればよいかがまず問題となる。生徒の胸に深い感動を呼びおこすもの、内容の本質的検討に耐えたもの、作品およびその時代の思潮の中核を伝えたもの、といった諸要素が考えられるわけである。そして、それらを扱う場合、語句・文脈などの抵抗が少なく、親しみを感ずるものからはいっていくことが、種々の学習抵抗をもつ古代和歌の指導にあたっては重要となってくる。同時に、親しみにくい歌を親しみやすいものにするにも指導の意義があり、こうした見地から、どんな歌を教材として採択すればよいか、一応のめやすを示したつもりである。

次に、生徒たちが親しみを感ずる点、親しみを感ずらない点を明らかにしてきたわけであるが、この教材反応にもとづいて、どのような指導過程を構築し、実際に授業を進めていくかが問題となってくる。また、その結果をさぐることによって、指導の限界と可能性をみきわめることもできようが、この点については稿を改めたい。

(広島大学教育学部付属東雲中学校教諭)